

鎌倉の埋蔵文化財16

Buried Cultural Properties in Kamakura 16

平成23年度発掘調査の概要

《玉縄城築城500年記念特集号》



平成25(2013)年3月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市の地下には、かつて栄えた中世の都市の跡をはじめとして、埋蔵文化財が今でも多く残っています。これらの埋蔵文化財は残念ながらさまざまな土木工事等によってそのままの姿で保存できないことも少なくありません。工事で失われ現状保存がかなわない遺跡は発掘調査を実施して可能な限り記録し、これら調査の成果を活用して将来へ伝えていくことは、私達の祖先の生き方を知る上で大切です。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、鎌倉駅地下道ギャラリーのパネル展示、遺跡調査・研究発表会の開催などを実施し、発掘調査の成果を広く紹介しています。

『鎌倉の埋蔵文化財16』では、平成23年度に発掘調査を実施した遺跡の中から、2遺跡の概要をお知らせいたします。また、平成24年は玉縄城築城500年にあたることを記念して、過去に玉縄城の範囲で行われた発掘調査のうち、現在まで成果が未公表となっている主な遺跡の概要も掲載いたしました。本誌をご覧になる皆様にも、往時を生きたひとびとの姿を思い浮かべていただければ幸いです。

これからも、さまざまなかたちで発掘調査の成果を紹介するよう努めてまいりたいと思います。今後とも文化財保護に対するご理解とご協力をお願いいたします。

平成25(2013)年3月 鎌倉市教育委員会

～目次～

1. 玉縄城特集

- (1) 地理・歴史的環境…………… 1
- (2) 発掘調査成果…………… 4
- (3) 発掘調査からわかること…………… 7

2. 平成23年度の成果

- (1) 今小路西遺跡…………… 8
- (2) 由比ガ浜中世集団墓地遺跡……………10

英文要旨……………12

～例言～

◎本書には、過去に玉縄城跡で実施された発掘調査と、平成23年度に市内で実施された遺跡の発掘調査の中から、主な調査の概要を掲載しました。

◎調査概要は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

齋木秀雄(有限会社鎌倉遺跡調査会)・滝澤晶子(株式会社博通)

(50音順・敬称略)

《表紙写真》 1960年の玉縄地区遠景(北西方向から撮影)

◎表紙題字は松尾右翠氏に揮毫をお願いしました。

1. 玉縄城特集

(1) 地理・歴史的環境

玉縄城跡は相模湾から5km内陸に入った鎌倉市の北端に位置します。JR大船駅の西方1.5km、城廻を中心に植木・関谷にわたる広大な遺跡です。かつて、一帯は標高50～80mの山々に複雑に発達した谷が樹枝状に入り組んだ地形を呈していました(表紙写真)。堀と土塁によって囲まれた中心部は城山と呼ばれており、東から南の丘陵下には柏尾川が廻って流れ、天然の堀の役割を果たしています。

玉縄の歴史は古く、古代の人々が使った美しい飾り玉が出土したことから「玉縄」という名がつけられたのではないかとされています。平安時代末期の『天養記』には「玉縄荘」という地名が、室町時代の『小田原記』には小田原城の支城として「玉縄城」の名が記されており、「当国無双の名城なり」と称えられています。玉縄城は丘陵の上に築かれ、南北約1000m、東西約1200mに広がる山城⁽¹⁾とされています。

関東名城の一つに挙げられる玉縄城は「伊勢宗瑞(北条早雲)」が築城し、玉縄衆という小田原北条氏の中核的家臣団の拠点となった城とされており、その支城が現在の横浜市長尾台・藤沢市渡内・高谷・大鋸にありました。関東地方の支配を争った際には、上杉謙信・武田信玄の攻撃を受けても破れませんでした。しかし、豊臣秀吉の小田原攻めの際に、徳川家康の家臣である本多忠勝に頼まれた大応寺(現・龍宝寺)や大長寺の住職らの説得により、その時の城主北条氏勝は降伏し、武力による直接的な落城こそはしませんでした。家康の前に開城しました。開城後、家康は玉縄城を水野忠守に預けましたが、江戸幕府による一国一城の制度により廃城とされました(第1表)。その後、松平定信が城の復興を図りましたが、実現することはありませんでした。

(1)山城…自然地形を利用して山上に築かれた城を指します。



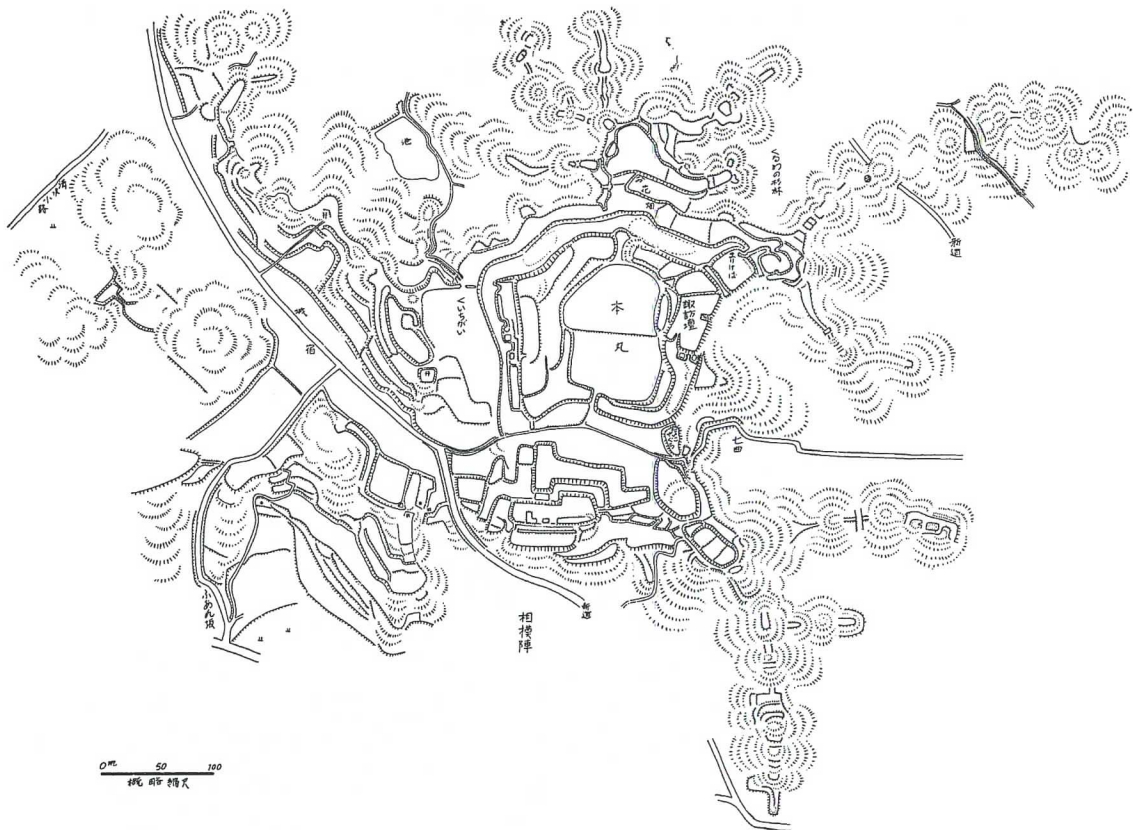
第1図 遺跡範囲地図 色の範囲が玉縄城跡 ⇨の先が本丸跡(第3図)

(Fig. 1) Map of the remains in Tamana area ⇨Donjon trace (Fig. 3)



第2図 玉縄城周辺図 ●=本報告掲載調査地点 ●=過去の調査地点
 (Fig. 2) Map around Tamanawajo Castle
 ●=Excavation point on this booklet ●=Excavation point in the past

太線内が玉縄城域を示しています。範囲は鎌倉市史考古編を参考に作成。⇒の先が本丸跡(第3図)



第3図 玉縄城縄張り図(赤星直忠氏調査)
 (Fig. 3) Tamanawajo Castle layout (by Mr. Naotada Akaboshi)

縄張り図は、歩測やメジャーなどを用いた簡易な測量により、曲輪や切岸、堀などの人工的に造られた地形をわかりやすく示したものです。玉縄城では平場などの地形が本丸を取り囲むように造成されていることがよくわかります。

第1表 玉縄城略関連年表

(Table 1) Chronology regarding Tamanawajo Castle

西暦	年号(年)	玉縄城に関する主なできごと
1512	(永正9)	玉縄城築城。
1518	(永正15)	江戸城の上杉朝興を玉縄城に迎え撃退。
1526	(大永6)	房州里見義弘が鎌倉に侵攻、鶴岡八幡宮を焼き、柏尾川戸部橋辺りで撃退。
1546	(天文15)	川越合戦。玉縄城主北条綱成、兵3000で川越城に6ヶ月籠城し、8000の上杉勢から守り通す。
1559	(永禄2)	城を増築。後北条氏家臣知行役帳に「玉縄衆」との記載がある。
1561	(永禄4)	上杉謙信が関東侵攻。城を囲む。
1589	(天正17)	豊臣秀吉の小田原攻め。徳川家康が玉縄城を囲む。 城主北条氏勝は玉縄城に籠城。
1590	(天正18)	本多忠勝が氏勝の叔父大応寺の良達和尚を使者として降伏を勧め、4月、氏勝が降伏。
		徳川家康が水野忠守に城を預ける。
1619	(元和5)	廃城。
		松平正綱が城跡南に陣屋を建てて住む。
1792	(寛政4)	松平定信が再興を図るが定信退職により実現せず。



写真1 玉縄城跡出土遺物

(Photo 1) Relics from the Tamanawajo Castle Site

(2) 発掘調査成果

① 植木字植谷戸1番 昭和57年11月～12月(やぐらの調査)

昭和58年3月～4月(平場の調査) 調査面積 約750㎡

調査地点は県道阿久和・鎌倉線の玉縄トンネルの南東、道路東側の小谷戸に位置します。発掘調査により、3段の平場から4基のやぐら⁽²⁾や掘立柱建物跡⁽³⁾などの遺構がみつかりました。やぐらの前面で発見された柱穴⁽⁴⁾はその位置関係から祠⁽⁵⁾の跡であった可能性が考えられます。16世紀代の遺物が出土していることから、ここは玉縄城の外周にあった生活と信仰の場と考えられます。

(2)やぐら…鎌倉市周辺を中心に存在する中世の横穴墳墓、供養所を指します。

(3)掘立柱建物…規則的な配列をもつ柱穴から想定される建物を指します。

(4)柱穴…柱を建てるために掘られた穴のこと。

(5)祠…先祖等を祭るところ。

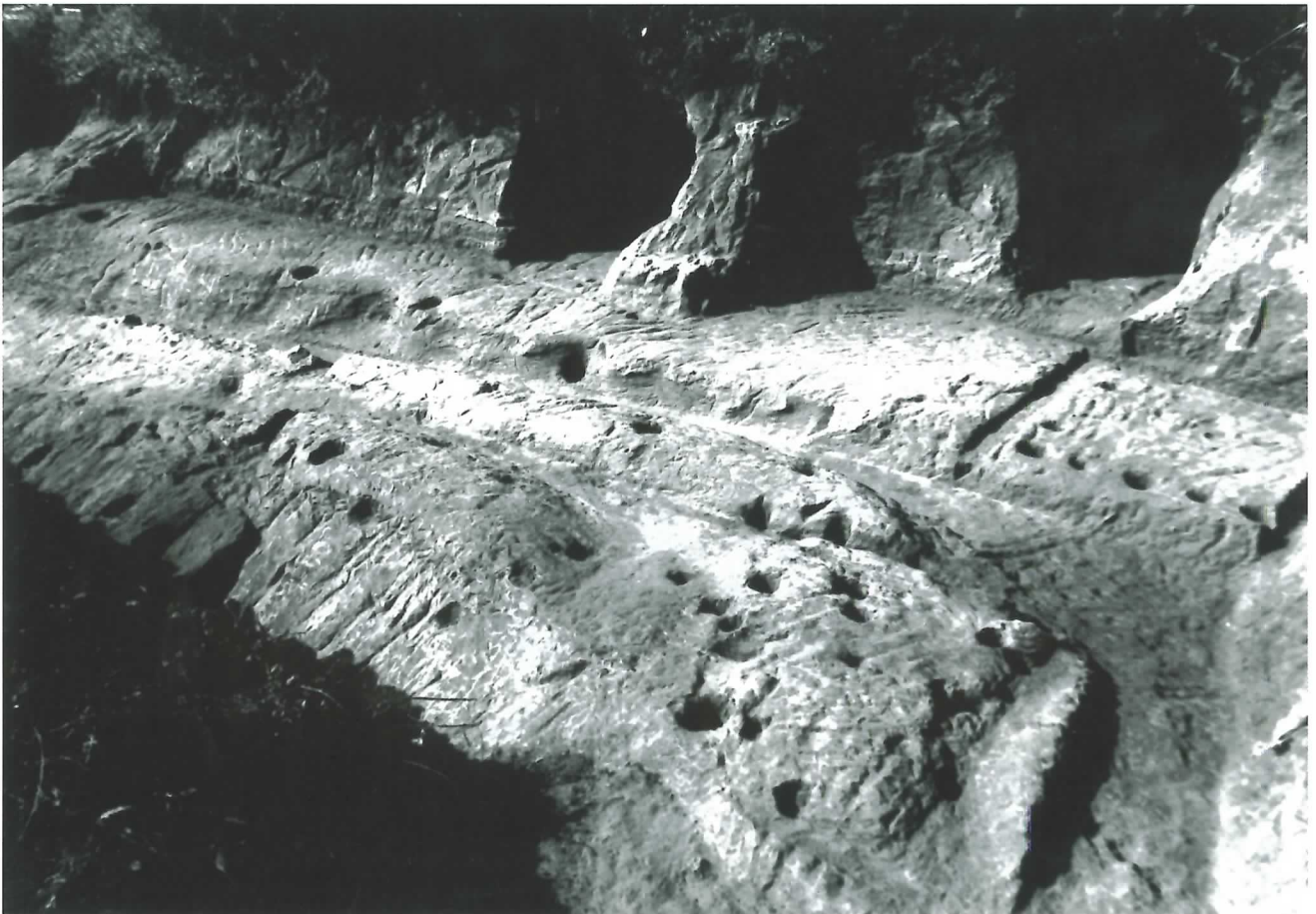


写真2 平場に築かれた掘立柱建物と道路状遺構(①地点) 写真向かって右のやぐら前にあるのが祠跡と考えられる柱穴
(Photo 2) Traces of structure and holes (Point ①)



写真3 漆器椀(②地点)
(Photo 3) Lacquer ware (Point ②)



写真4 五輪塔(火輪)出土状況(③地点)
(Photo 4) The part of Gorinto (Point ③)

② 植木字相模陣370番 平成元年8月～平成2年3月 調査面積 約3000㎡

調査地点は玉縄城の中心部より南側の規模の大きな谷戸に位置し、ここは玉縄城廃城後に松平氏の陣屋⁽⁶⁾が置かれた場所と推定されています。発掘調査により、弥生時代の竪穴住居跡、土器、石器等、16～18世紀の道路や池、建物跡、井戸、木樋、陶器、かわらけ、漆器、木製品などがみつかりました。18世紀の遺構・遺物は、松平氏の陣屋に伴うものと考えられています。

③ 植木字植谷戸66番1外 平成11年3月18日～5月31日 調査面積 約770㎡

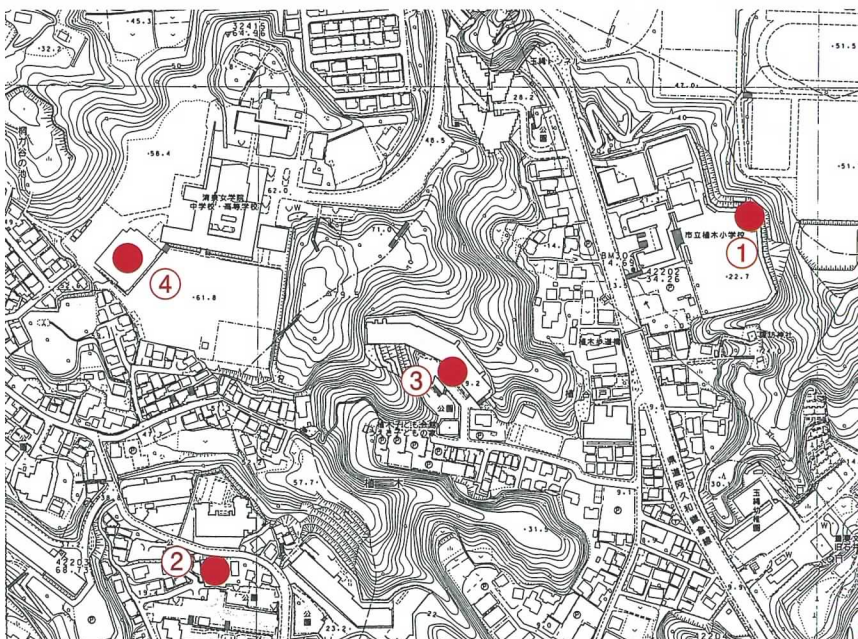
調査地点は玉縄城中心部の東側の谷戸内に位置します。発掘調査により、2基のやぐらや掘立柱建物跡、五輪塔⁽⁷⁾の一部などがみつかりました。城の中心部への通路として重要な位置にあることから、重臣の屋敷や寺院があった可能性がうかがえます。ほかには古墳時代の土器などがみつかり、谷戸を取り巻く丘陵に当時の集落があったと考えられます。



写真5 池の跡(玉砂利の部分)(②地点)
(Photo 5) Pond (Point ②)



写真6 木樋と枡(②地点)
(Photo 6) Gutter (Point ②)

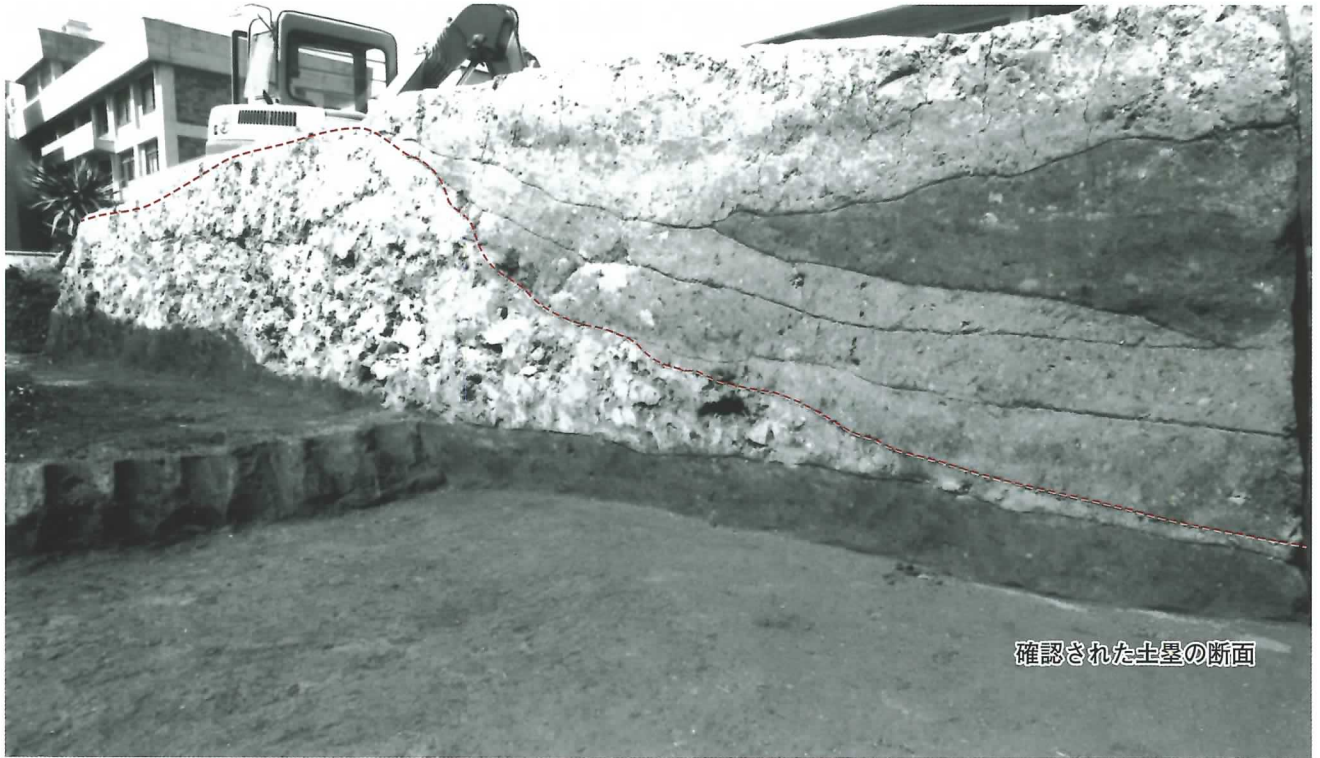


第4図 玉縄城周辺拡大図(地点1～4)
(Fig. 4) Map around Tamawajo Castle (Point 1-4)

- (6)陣屋…江戸時代においては城を持たない小大名などの屋敷。また、旗本・郡代・代官などの支配地における役宅や屋敷を指します。
- (7)五輪塔…中世以降に供養塔・墓塔として使われていた石造物の一種。

④ 城廻200番地 平成13年6月～7月14日 調査面積約120㎡

調査地点は城のほぼ中心に位置し、玉縄城築城の際に造られた土塁状の盛土がみつき、確認できた範囲での土塁は幅8m、高さ1mの規模で造られていました。弥生時代後期の住居跡もみつかり、谷底の湿地で水田耕作を営む集落があったことがうかがえます。



確認された土塁の断面

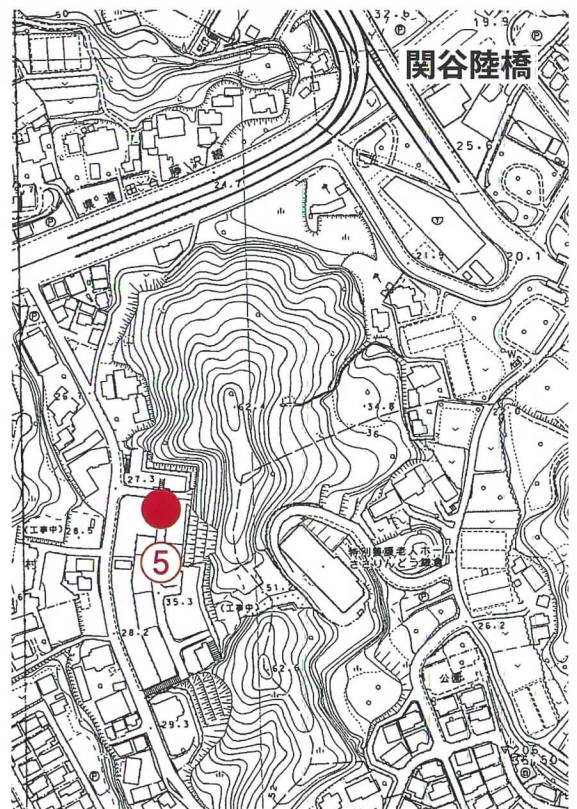
写真7 玉縄城築城の際に築かれたと考えられる土塁の断面(④地点)
(Photo 7) Banks (Point ④)

⑤ 城廻字中村636番1外 平成17年4月1日～6月30日 調査面積約8735㎡

調査地点は県道田谷・藤沢線にある関谷陸橋の南西に位置します。丘陵部では調査区内に4段の曲輪⁽⁸⁾があり、各曲輪内では方形に溝を廻らせた建物跡とともに陶磁器類、石臼、かわらけなどの中世の遺物がみつかりました。切岸⁽⁹⁾状に切り落とされた円弧状の崖裾にはやぐら等、その前面の平坦面からは崖際を廻る溝状遺構と柱穴群、井戸などが発見されました(写真8)。

堀切⁽¹⁰⁾や塹堀⁽¹¹⁾などの遺構はみつかりませんが、大手門があったとされる谷戸の入り口方向(北西側)を見渡せる尾根であることから、防衛と居住の両面を兼ね備えた施設のあった場所と推測されます。

(8)曲輪…平坦地や削平地を土塁・堀・切岸などで区画した防御空間を曲輪と呼び、「郭」とも書きます。近世城郭では本丸・二の丸・三の丸と呼ばれますが、戦国期の城は、本曲輪(主郭)あるいは一の曲輪・二の曲輪・三の曲輪といった言い方がされていました。



第5図 玉縄城周辺拡大図 地点5

(Fig. 5) Map around Tamawajo Castle (Point 5)



写真8 崖裾のやぐらと曲輪内でみつけた遺構群(⑤地点)

(Photo 8) “Yagura” caves and remains

(3) 発掘調査からわかること

今回報告した発掘調査地点を含めて、玉縄城跡とされる範囲内の丘陵では、遅くとも弥生時代には人々が住み始めています。柏尾川の周辺は耕作に適した湿地帯があり、ここを生活基盤として古代以前の人々が集落を営んでいたと考えられます。

中世に入ると玉縄城が築かれ、谷戸には平場や建物跡、井戸、土坑⁽¹²⁾、道路等の遺構ややぐらが、尾根部では切岸や堀切、土橋などの防衛色の強い遺構がそれぞれ造られています。玉縄城の廃城以降は耕作地として利用される箇所が増え、その後、学校建設や宅地造成が進み現在に至っています。

1960年に撮影された航空写真(表紙)や縄張り図(第3図)などからは自然地形を利用した典型的な山城の姿をみることができます。しかし、発掘調査が行われることなく失われてしまった部分も多く、現在は山城の形状をほとんど留めていません。

今日までの発掘調査では館と関連すると考えられる発見もありましたが、広大な山城のごく一部を調査したにすぎず、玉縄城の全容をうかがうことは難しい状態です。また、出土遺物も多くないことから、個々の遺構の年代や性格などの解明は今後に残された課題です。

(9)切岸…曲輪の周りや堀の斜面を、より急峻に削って敵の侵入を防いだ防衛施設です。戦国期の山城の中には、空堀や土塁がなく、切岸のみのものがあります。

(10)堀切…堀の一種で、曲輪に続く尾根の稜線を横に切断し、敵の侵入を防ぐ堀を指します。

(11)塹堀…斜面に掘られた堀のうち、山頂から山裾に向けて掘られたものを指します。

(12)土坑…土を掘りくぼめてできたと考えられる穴のうち、性格が見極めにくいものを指します。

2. 平成23年度の成果

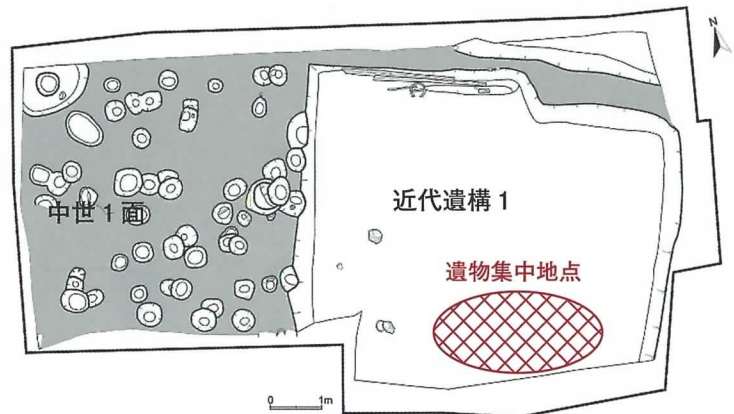
(1) 今小路西遺跡いまこうじにしいせき (扇ガ谷一丁目145番3、146番2地点)

Ima-Koji-Nishi-Iseki Site

明治～大正期の生活の跡

調査地点はJR鎌倉駅西口から北西へ230mの位置にあります。

今回は建築工事に先立ち約120㎡が調査されました。その結果、13世紀後半～14世紀中頃までの生活面が4面見つかри、掘立柱建物跡や土坑、切石列などの遺構が発見されました。また、中世の面を掘り込むように近代(明治～大正期)の遺構も発見されました(第6図)。これに伴って多くの遺物が出



第6図 遺構配置図
(Fig. 6) Remains layout

土しましたが、鎌倉市内では近代という新しい時代の遺構についてほとんど調査・報告されたことがなく、貴重な資料です。

近代遺構の1基は東西7m×南北6m、深さ約70cmの四角い穴で、調査区外の南側にも広がっています。その中の遺物集中地点からは明治後半～大正前期頃に使用され、廃棄されたと推測される遺物が大量に見つかりました(第6図、写真9・10)。

出土した遺物は多種多様な生活用具です。最も多かったのは陶磁器の食器や調理具・玩具などで、当時としては貴重な洋食器や、大船軒「うるか¹³⁾」の容器、鶴岡八幡宮入口にあった角正旅館の名入り盃など地元商店の名前が読み取れるものもありました。多種のガラス製品や金属製品、荷札や下駄などの木製品もありました。荷札の中には墨で人物名や記号が書かれたものも数点見つかりました。



写真9 近代遺構1 遺物集中地点
(Photo 9) Remains of the modern period 1 (spot where many relics were found)



写真10 荷札
(Photo10) Tag

明治20年頃の鎌倉は皇族・華族・軍人・商人の別荘地として人気が高まり、明治末には500戸近い別荘がありました。中でも調査区周辺は皇族や華族が住んだ区域といわれています。洋食器や豊富な玩具が出土することから、周辺にはこうした人々の住む邸宅があり、そこで使用されたものが廃棄されたと推測されます。

(13)うるか…鮎の内臓や子を塩漬けにしたもの。



醤油瓶 Soy Sauce bottles



かど正(角正)名入り盃
Sake cup with local shop's name



大船軒「うるか」容器
Container with local shop's name



ビー玉とおはじき Marbles and taws



飯碗 Rice bowls



だるま Dharma dolls



酒の器 Containers of sake



紅茶茶碗とコーヒーカップ
Tea cup and coffee cup

写真11 近代遺構から出土した遺物

(Photo11) Relics from the remain of the modern period

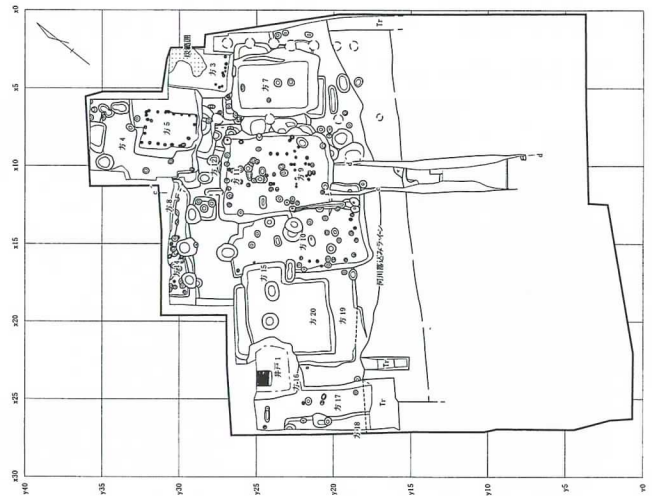
ゆい はまちゆうせいしゅうだん ぼち いせき
(2) 由比ガ浜中世集団墓地遺跡 (由比ガ浜二丁目1015番25外2筆地点)
Yuigahama-beach mass burialsite from Middle Ages Site

滑川の岸の跡か

由比ガ浜中世集団墓地遺跡は滑川の河口一帯に広がる遺跡で、調査地点は海岸線から北東へおよそ550m、若宮大路から東に約120mの位置にあります。約700㎡を調査した結果、地表から約10～50cm下で14世紀前半～中頃の生活面(第1面)、さらにこの約1.6m下で13世紀末～14世紀前半頃の生活面(第2面)が見つかりました。

第1面からは方形竪穴建物跡2棟・埋葬骨(写真12左下)2体・土坑など、第2面からは方形竪穴建物跡17棟・溝2条・井戸1基・土坑などが見つかりました(第7図)

調査区内では滑川の古い川岸と考えられる遺構も見つかり、当時の岸は現在よりも西側にあったと推測されます(写真12)。



第7図 遺構配置図(第2面)

(Fig. 7) Remains layout



写真12 調査区全景(第1面)と埋葬骨

(Photo 12) View of the remains (first layer) and human bones

貞永元年(1232)に和賀江嶋が港として造られると、中国や国内各地からの物資がこのあたりに盛んに水揚げされたと考えられます。これまでの調査で、13世紀末頃の由比ガ浜周辺には、多くの倉庫や簡単な建物が密集していたことが知られていますが、今回第2面で発見された遺構も、川沿いでの物資の水揚げや運搬に関する遺構である可能性も考えられます。

式盤か？(墨書文字のあるかわらけ)

第1面から出土した遺物の中に、内外面に文字が書かれた土器が2枚ありました。1枚の内面の中心には「地」の文字、外面には一年の12の月を神格化し星や神の名で表した二文字と干支の一文字を合わせた三文字が放射状に書かれています(写真13)。もう1枚の内面の中心には「天」の文字、外面には干支や記号が書かれています。この2枚は陰陽道⁽¹⁴⁾の占いで使用する「式盤」と推測されます。古代中国から伝わる式盤は、円形为天盤と方形の地盤とが合わさった形で、天盤を回転させて地盤の文字や記号と組み合わせることで占いの結果を得るものです。しかし、日本の陰陽道で使用された中世の式盤は、密教資料に僅かに描かれるのみで現存しないため、材質や具体的な形状はわかっていません。

鎌倉では、13世紀前半の4代将軍頼経の頃に陰陽道の祭事が盛んにおこなわれました。

これまでの調査では、陰陽道に関しての魔除札や形代⁽¹⁵⁾などは比較的多く出土していますが、このように文字がしっかりと書かれた遺物は初めてで、全国的にも珍しいものです。

(14)陰陽道…古代中国から伝わった陰陽五行説をもとに平安時代に日本で成立した自然科学と呪術の体系です。

(15)形代…人や動物などを模して木や紙、布などで作った呪術の道具。

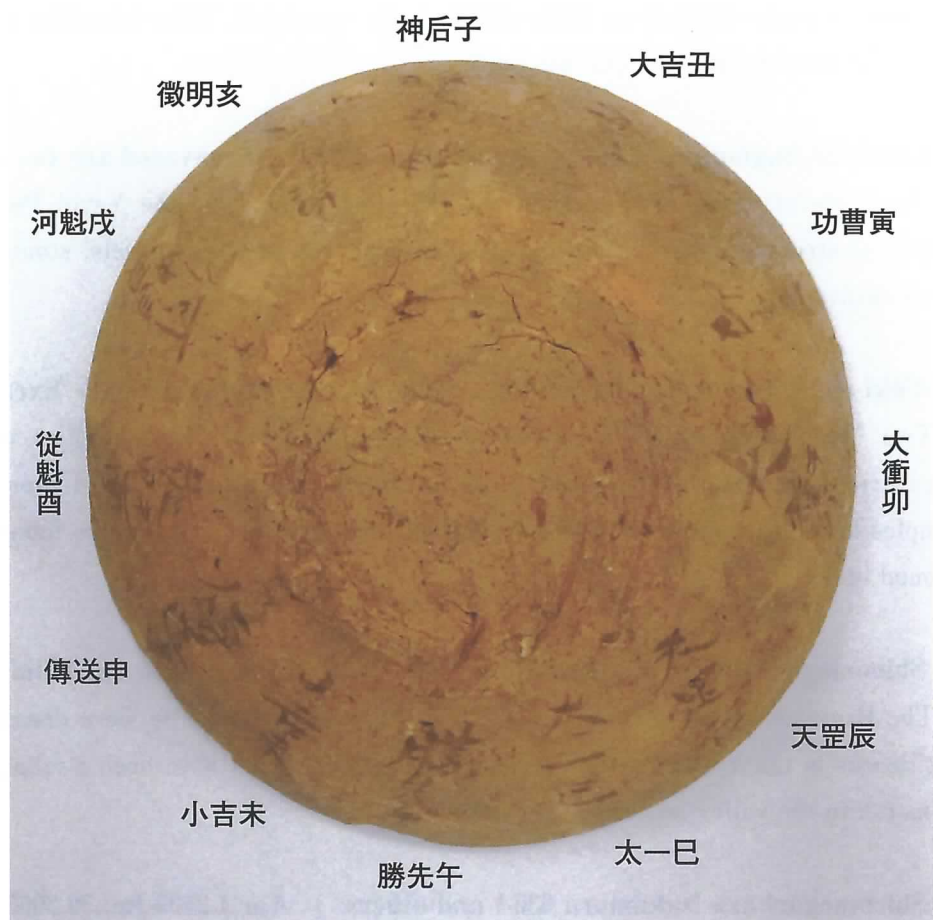


写真13 式盤(墨書かわらけ)

(Photo13) Kawarake with Chinese ink script

Buried Cultural Properties in Kamakura 16

1 The feature on Tamanawajo Castle

Geographical and historical surroundings

Tamanawajo Castle Site is located at the northern end of Kamakura City. The main part of the site is 1.5km to the west from JR Ofuna station, where the castle was built by utilizing the hill of 50-80m above sea level. The Kashiogawa River which runs at southeast of the site had the function as natural fortress.

It is supposed that the name of "Tamanawa" was originated in the beautiful decorated beads which had been excavated around here in the ancient period. (※"Tama (玉)" means beads in English.) The name of "Tamanawa" is mentioned in several books, such as "Tenyoki" from the Heian Period as "Tamanawa-no-Sho", "Odawaraki" from the medieval as "Tamanawajo Castle - This is the most peerless castle in this region."

Tamanawajo Castle was built by Ise Sozui (Hojo Soun). The force, such as the attack of Uesugi Kenshin and Takeda Shingen, could not fell the castle, but Tokugawa Ieyasu and others made the castle surrender by persuasion. In the Edo Period, the castle was abolished by the Ikkoku Ichijo Rei (Law of One Castle per Province). Thereafter, Matsudaira Sadanobu attempted to reconstruct the castle, but the plan couldn't be realized.

Excavation results

① Ueki aza Ueyato 1 Nov.1982-Dec.1982 (Excavation of "Yagura" caves (funeral sites))

Mar.1983-Apr.1983 (Excavation of flatlands) Excavated are: ca.750㎡

Four "Yagura" caves, the traces of structures were found from the three-tiered flatlands by the excavations. In addition, some relics from 16th century were excavated. Therefore, this spot is thought the place of living and religious activities outside the castle.

② Ueki aza Sagamijin 370 Aug.1989-Mar.1990 Excavated are ca. 3,000㎡

The trace of residences, earthen vessels, stone tools from the Yayoi Period, as well as road, ponds, the traces of structures, wells, pottery, wooden products, earthen vessels, stone tools from 16th to 18th century were excavated.

③ Ueki aza Ueyato 66-1 and others Mar.18.1999-May 31.1999 Excavated area ca. 770㎡

Two "Yagura" caves, the traces of structures, a part of "Gorinto"(five wheel pagoda) were found by the excavations. It was the important place as the way to the castle, and there could have been residences or temples here. As some relics from the Kofun (tumulus) Period were also found, there might have been a village around here.

④ Shiromeguri 200 Jun.2001-Jul.14.2001 Excavated area ca. 120㎡

The Banks as fortress built with the construction of the castle were discovered. Furthermore, the trace of residences in the Yayoi Period was excavated. There might have been a village where rice field was cultivated at marsh in the valley bottom.

⑤ Shiromeguri aza Nakamura 636-1 and others Apr.1.2005-Jun.30.2005 Excavated area ca. 8,735㎡

The traces of structures with ditches, pottery, millstones, kawarakes (unglazed earthenware) in the medieval were excavated from each of the four-tiered flatland. Also, "Yagura" caves, pits and wells were discovered.

(Photo 6)

It is supposed that there was a facility for both defense and dwelling in this place, because the northwest valley entrance where Otemon (main gate) might have been, could be looked out over from there.

The result of the excavations

People had been begun to settle in this area by the Yayoi Period at the latest. The village seems to have been formed using the marsh around Kashiogawa River.

In the medieval, Tamanawajo Castle was built and a lot of life space and the military facilities were constructed.

The cover photo of this booklet taken in 1960 shows a remnant of the medieval. However, the remnant in this area hardly remains today due to developments.

Just only a part of the huge castle has been excavated until now. The excavated relics are not sufficient to analyze exact characteristics and period of the remains. To make these points clear is the remaining issue.

2 Excavation results in 2011

1 Imakoji-Nishi-Iseki Site (Ogigayatsu 1-145-3, 146-2)

The life traces from the Meiji Period to the Taisho Period

The excavated point is 230m to the northwest from JR Kamakura Station west exit.

The four life layers from the late of 13th century to the middle of 14th century were excavated. Also in a hole as garbage dump which was dug over these layers, the remains and relics of the modern period (Meiji Period-Taisho Period) were excavated. Those remains of the modern period are valuable historical materials, because they have been hardly excavated in Kamakura. The main relics were pottery, kitchen utensils and toys including rare Western tableware at the time, some sake cups with local shop's names.

Kamakura in those days was the popular area of villas and there were about 500 villas at the end of the Meiji Period.

It is said that around this point was the residential area of the upper classes, such as the imperial family and the peerage. These relics seem to be the house supplies which were used and disposed by these upper class families.

2 Yuigahama-Chusei-Shudan-Bochi-Iseki Site (Yuigahama 2-1025-25 and other 2 points)

This site spreads at the mouth of Namerigawa River, the excavation point stands at the west side of the river and 50m from the coastline. The remains of life and the riverbank from the late of 13th century to the beginning of 14th century were excavated. There found a lot of remains of the sheds, simple houses and wells closely existed.

Kawarakes with Chinese ink script

Two kawarakes with Chinese ink script were excavated. Three characters, deified the calendar and Eto (Chinese astrological calendar), are radially written on outside of the kawarakes. They are assumed to be used for fortune-telling by Onmyodo (yin-yang philosophy). Onmyodo is a mixture of natural science and occultism, introduced to Japan from ancient China and developed as original philosophy in the Heian Period. No similar relics have been excavated in Kamakura, and they are nationally also rare.

本書掲載の調査地点



《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1. 玉縄城跡(城廻、玉縄、植木) ※太枠：掲載遺跡所在範囲、本文第2図範囲
2. 今小路西遺跡(扇ガ谷一丁目145番3、146番2地点)
3. 由比ガ浜中世集団墓地遺跡(由比ガ浜二丁目1015番25外2筆地点)

鎌倉の埋蔵文化財 16

発行日
編集・発行

平成25(2013)年3月29日
鎌倉市教育委員会
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号
TEL：0467(23)3000 FAX：0467(23)8700
E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp

印刷

中川印刷株式会社
